

令和 5 年度要覧



埼玉県立

歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

設置の目的・事業

埼玉県立歴史と民俗の博物館設置の目的は、資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図ることにより、教育や学術、文化の発展に寄与することにある。

その目的を達成するために、次の事業を行っている。

- 1 郷土埼玉の文化を総合的に捉え、その変遷と発展を知るための歴史及び民俗資料等について調査研究し、収集・保管し、展示する。
- 2 資料を適正に管理するとともに、文化財保存機関としての事業を行う。
- 3 資料の利用に関する必要な解説、案内、指導、助言等を行う。
- 4 資料に関する講演会、講習会、実演会、研究会等を主催し、開催を支援する。
- 5 資料に関する案内書、解説書、図録、調査報告書等を刊行し、頒布する。
- 6 他の博物館、学校その他の関係機関等と協力し、その活動を支援する。
- 7 その他当館の目的を達成するために必要な事業を行う。

もくじ

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命	1
沿 革	2
令和5年度事業計画	4
令和4年度事業報告	13
令和4年度利用者数	25
展示概要等	26
組織及び職員構成	29
施設設備	31
資 料	34
利用案内	37

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命

1 本館の使命

本館は、埼玉の歴史と民俗に関する資料を収集・保管し、総合的に調査研究することにより、埼玉の地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、県民の学習活動や交流の場となることにより、県民各層の心豊かなくらしと新たな文化の創造に寄与する博物館です。

私たちは、博物館に携わるすべてのマンパワーと資源を駆使して、埼玉の魅力をアピールするとともに、県民と協働した生涯学習を推進する中核的生涯学習施設としての役割を果たします。

- 1 県民共有の文化遺産である埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管・活用するとともに、調査研究して、次世代に継承します。
- 2 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにした調査研究の成果を展示公開するとともに、国内外に情報発信します。
- 3 地域や学校と連携することにより、県民の参画と交流による学習の場として、埼玉の歴史や民俗に関する生涯学習や学校教育を支援します。
- 4 県内の博物館ネットワークの中核的施設として、市町村の歴史・民俗系の博物館を中心に、その事業や活動を支援します。
- 5 ボランティアやミュージアムクルーの育成・活用等を積極的に進めるとともに、様々な事業において、学校や地域社会の幅広い人材と広く連携・協働し、開かれた博物館活動を展開します。
- 6 埼玉の歴史や民俗に関する資料を核にして県民が集い、交流し、活動するやすらぎと潤いのある快適空間を提供します。

【 本館の経緯 】

本館は、旧県立博物館と旧県立民俗文化センターを統合し、平成18年4月1日に誕生した歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である。

母体となった2館のうち、旧県立博物館は、昭和46年11月、明治4年の埼玉県誕生から100年を記念して、人文系総合博物館として開館した。その後、昭和57年11月の県立近代美術館の開館を機に、展示室を全面的に改装して歴史系博物館に衣替えし、昭和58年11月に新装開館した。

一方、昭和55年11月に開所した旧県立民俗文化センターは、民俗芸能及び民俗工芸を調査研究の対象とする施設として全国に先駆けた存在であった。

その後、平成17年2月に策定された「県立博物館施設再編整備計画」により両館が統合され、収蔵資料はもとより長年培ってきた調査研究の成果を結集して、新たに「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として発足した。

沿革

昭和

- 34年12月 埼玉県立博物館の設置についての請願を
県議会において採択
- 43年8月 埼玉県立博物館建設基本構想を決定
- 11月 設計を(株)前川國男建築設計事務所へ委託
- 44年9月 博物館建設工事費として13億円を計上
- 10月 県立文化会館を廃止し、新たに県立博物館
準備事務所を県立浦和図書館内に設置
- 46年11月 埼玉県立博物館条例を制定、開館**
- 47年9月 「太平記絵巻（巻第一）」を購入
- 12月 博物館法第11条に基づく登録博物館となる
- 51年1月 文化財保護法第48条に基づく国宝・重要文
化財の勧告・承認出品の展示館となる
- 52年4月 5月5日（祝）を開館日とする
- 55年4月 4月29日（祝）、5月3日（祝）を開館日
とする
- 11月 埼玉県立民俗文化センター開所**
- 58年11月 埼玉県立博物館新装開館、開館記念特別展
「武蔵武士」開催
- 12月 国宝「太刀」（銘備前国長船住左兵衛尉景光）
を購入
- 60年4月 エントランスホール、館庭等を無料開放
元日を除く国民の祝日を開館日とする
- ### 平成
- 3年10月 開館20周年記念展「さいたまの名宝」
開催、記念図録出版
- 5年4月 国宝「短刀」（銘備州長船住景光）を購入
- 6年3月 障害者対応型エレベータ設置
- 6年4月 高齢者（65歳以上）及び障害者等の入館料
無料化
幼児コーナー及び休憩コーナーを開設
- 7年4月 義務教育終了前の者の入館料無料化
- 10月 「太平記絵巻（巻第七）」を購入
- 8年4月 「太平記絵巻（巻第二）」を購入

平成

- 10年6月 インターネットのホームページ開設
- 11月 当館が「公共建築百選」に選定
- 12年5月 拡大常設展「博物館の広場」開催
- 13年11月 「太平記絵巻（巻第十）」を購入
- 14年5月 2002 FIFA ワールドカップ™ 記念特別展
「蹴鞠-KEMARI-」開催
- 7月 「太平記絵巻（巻第六）」を購入
- 11月 当館が第4回日本建築家協会25年賞受賞
- 16年10月 清子内親王殿下 お成り
- 18年4月 県立博物館施設再編整備計画により、埼玉
県立博物館と埼玉県立民俗文化センターを
統合、埼玉県立歴史と民俗の博物館設置**
- 19年3月 関東地区博物館協会初の共同企画展「祈り
の風景ー埼玉の絵馬ー」開催
- 4月 体験学習施設「ゆめ・体験ひろば」を開設
- 20年3月 大規模改修及び耐震補強工事第Ⅰ期完了
- 21年10月 交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催
「まなびピア埼玉2009」出展
- 22年2月 大規模改修工事第Ⅱ期完了
- 23年3月 大規模改修工事第Ⅲ期完了
階段昇降機設置
- 24年9月 天皇皇后両陛下 行幸啓
- 25年6月 秋篠宮文仁親王殿下 お成り
- 7月 65歳以上の観覧料減免措置廃止
- 26年8月 入館者累計500万人達成
- 28年2月 特別展示室非構造部材耐震対策工事完了
- 29年3月 南通用門の開放及びゆめ・体験ひろばに自
動ドアを設置
- 31年2月 Saitama Free Wi-Fi設置、運用開始
- ### 令和
- 2年2月 感染症感染拡大防止のため臨時休館（～5月）
- 12月 感染症感染拡大防止のため臨時休館（～3月）
- 3年3月 NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄
一のまなざし～」開催

- 3年9月 開館50周年記念事業を実施（～12月）
- 10月 埼玉150周年及び開館50周年記念特別
展「埼玉考古50選」開催
- 4年12月 大規模改修工事第Ⅰ期開始

令和5年度 事業計画

◆事業運営の基本方針

1 事業運営の方針

平成18年4月、当館は、歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として再出発して以来、その使命を果たすべく取り組んできた。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、博物館事業の基本となる埼玉の歴史と民俗に関する資料を適切に収集・保存・修復し、総合的に調査研究することにより、埼玉らしさを明らかにする。そしてその成果を展示公開するなど最大限に活用を図り、国内外への情報発信に努める。学習支援事業を推進し、学校や地域等との連携を深め、県民利用の一層の促進を図る。地域文化及び学術研究施設として、県内の博物館施設のセンター的役割を果たすべく努力する。

さらに、少子高齢化やグローバル化の進展など社会情勢の変化に対応し、県民を中心に世界中の人々が誰でも参加できる親しみやすい事業運営に努めるとともに、多様な「人財」の育成及び生涯にわたる学びを支援できるよう工夫する。また、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえながら、世代を超えて、すべての人をやさしく迎え、すべての人が楽しめる博物館を目指す。

【主な施策】

- (1) 調査研究に基づく、資料の収集・保管と展示の充実
- (2) 常設展及び特別展・企画展に関わる調査と資料収集、展示の充実
- (3) 県民の学習支援の推進と講座・講習会等の充実
- (4) 学習成果を生かす、体験学習・展示解説ボランティア活動の促進
- (5) 高度情報化に対応した広聴・広報活動の充実
- (6) 学校教育・社会教育・地域社会・民間団体等との連携

2 事業運営の重点的な取組

- (1) 総合的有害生物管理と資料総点検作業の計画的な実施
- (2) 埼玉の潜在的な文化遺産を活用するための組織的、継続的な調査研究の実施

【中期重点目標と取組み(1)】●

- (3) 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な企画展の開催

【中期重点目標と取組み(1)】●

- (4) 常設展示室第10室（民俗展示室）に係る全面展示替えの実施
- (5) 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた学校教育との連携の強化

【中期重点目標と取組み(3)】●

- (6) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会等関係機関とのネットワーク機能の充実
- (7) 博物館ホームページの充実やSNSの活用、関係機関等との連携による戦略的広報の推進

【中期重点目標と取組み(2)】●

- (8) 安心・安全で快適な空間を提供する改修工事を始めとする施設の充実

【中期重点目標と取組み(4)】●

◆主要事業計画

1 中期重点目標と取組

- (1) 研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組（令和5年度～9年度）
 - ① 研究テーマと展示公開までを含めた年次計画の策定、実施に向けたチームの編成
- (2) ホームページやSNSを駆使した効果的な情報発信の取組（令和5年度～7年度）
 - ① 休館中のHPやSNSを活用した情報発信の取組
 - ② ホームページ「スタッフブログ」の充実
 - ③ 館有資料に関するデジタルコンテンツの制作と公開
- (3) GIGAスクール構想に対応し、ICTを効果的に活用した学校連携の強化（令和5年度～7年度）
 - ① 第4学年社会科に対応したオンライン授業の実施
 - ② タブレット持参の社会科見学に対応した2次元バーコード読み取りによる展示解説の設置
- (4) 誰もが利用しやすく理解しやすい館内・展示環境実現の取組（令和5年度～7年度）
 - ① 館内の案内表示等の刷新
 - ② 展示キャプション・パネルの刷新
 - ③ デジタルを活用した展示手法の実施

2 調査研究事業

- (1) 「埼玉の地方文化とその特性―地域文化圏に関する調査研究―」を館職員の調査研究共通テーマとし、その成果を『紀要』に掲載
- (2) 『紀要』第18号の編集、刊行
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業 「巡り・廻りの民俗行事」（第Ⅱ期）の実施
- (4) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (5) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム学芸員合同研究発表会への参加

3 資料調査事業

- (1) 資料の収集
埼玉県歴史・文化・伝統を象徴するコレクションの形成・充実に重点を置いた購入・受贈を図り、さらに無形民俗文化財の映像等による記録保存にも努める。
- (2) 資料の整理・保存・管理
収集した資料を整理し、保存管理に万全を期するため、毎月資料総点検を実施するほか、劣化の進んだ資料については修理を実施する。
さらに総合的有害生物管理（Integrated Pest Management 略してIPM）を実施して、虫菌害予防のための資料保存・管理及び対策を図る。
春木南湖筆「紙本山水図」、「絹本山水図」の修理を行う。
- (3) 館施設の防虫消毒
第1期 10月2日（月）～10月3日（火） 工事休館中
第2期 令和6年2月26日（月）～2月27日（火） 休館期間 左の期間と同様
- (4) 減圧滅菌装置による初発燻蒸
新規受入資料及び外部借用資料等の減圧滅菌装置による燻蒸殺虫を適宜行い、有害虫及び有害菌の防除に万全を期する。

(5) 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等にある当館所蔵の民俗資料を適切に管理する。

4 常設展示事業

メインテーマ：「埼玉における人々の暮らしと文化」

(1) 展示替え

① 美術展示（第4室）

「異国への憧れ」	10月14日(土)～12月17日(日)
「諸井家の美術」	12月19日(火)～令和6年3月17日(日)
「麗しき祈り」	令和6年3月19日(火)～5月12日(日)

② 歴史特集展示

第7室「家康と北武蔵」	10月14日(土)～12月17日(日)
第9室「銀座復興絵巻」	10月14日(土)～12月17日(日)
第9室「渋沢栄一ゆかりの人物 諸井恒平」	12月19日(火)～令和6年3月17日(日)
第9室「埼玉遊覧」	令和6年3月19日(火)～6月9日(日)
第3室「国宝太刀・短刀の公開」	令和6年1月30日(火)～3月3日(日)

③ 民俗コラム展示（第10室）

「炭をつかう」	10月14日(土)～12月17日(日)
「子どもの祝い」	12月19日(火)～令和6年3月17日(日)
「お茶づくり」	令和6年3月19日(火)～6月9日(日)

④ 季節展示（季節展示室）

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施する。

文化遺産調査活用事業報告展示「巡り・廻りの民俗行事」

令和6年1月30日(火)～3月3日(日)

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日を目安に展示替えを実施。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華経一品経(ときがわ町・慈光寺)

令和6年 3月19日(火)～5月12日(日)第4展示室

国宝 太刀

令和6年 1月30日(火)～3月3日(日)第3展示室

国宝 短刀

令和6年 1月30日(火)～3月3日(日)第3展示室

重文 熊野神社境内古墳出土品(桶川市・熊野神社)

10月14日(土)～(通年) 第2展示室

重文 宋版一切経(川越市・喜多院)

10月14日(土)～12月17日(日)第7展示室

重文 紙本著色伝貞巖和尚像(久喜市・甘棠院)

10月14日(土)～11月12日(日)第5展示室

重文 銅造阿弥陀如来立像(神川町・光明寺)

令和6年3月19日(火)～3月31日(日)第4展示室

(3) 重要有形民俗文化財の展示

重民 北武蔵の農具

10月14日(土)～令和6年3月31日(日)第10展示室

5 特別展・企画展示事業

(1) 特別展

名称・開催期間	展 示 内 容
特別展 「縄文コードをひもとく ー埼玉の縄文土器とその世界ー」 11月14日（火） ～令和6年1月14日（日）	縄文土器はその文様と形は地域、時期ごとに多様なあり方をみせる。現代の私たちには理解の及ばない縄文土器の文様と器の形には、縄文土器をつくった人々の思想、生活、社会のあり方が深く関係している。記号・暗号・規則といった意味のコード code と縄文土器の名称の起源となった cord-marked pottery のコードマーク（縄文）をはじめとする文様に注目し埼玉地域の縄文社会の実像に迫る。 開催日数：52日 展示資料：約250点 [関連事業] ・記念講演会 12月10日（日） ・歴史民俗講座 11月26日（日） ・展示解説 11月23日（木・祝）、12月3日（日）、令和6年1月6日（土）、1月14日（日）
特別展 「鉢形城主 北条氏邦」 令和6年3月16日（土） ～5月6日（月・振休）	寄居町に所在する国指定史跡・鉢形城跡は、戦国時代に小田原北条氏が北武蔵支配の重要拠点とした名城である。現在の寄居町、秩父市、小鹿野町などの周辺地域には、鉢形城主北条氏邦やその家臣団ゆかりの文化財が多く残されている。本展では、氏邦と家臣団が奉納したものとしてよく知られる法養寺薬師堂（小鹿野町両神薄）の木造十二神将立像などを一堂に展示するとともに、近年における調査研究等の新たな成果を踏まえつつ、鉢形城主北条氏邦をめぐる歴史像を描き出す。 開催日数：47日 展示資料：約120点 [関連事業] ・記念講演会 ・展示解説

(2) 出張展示他

名称・開催期間	展 示 内 容
出張展示 in 深谷 「書画から見よう 栄一と惇忠」 4月26日(水) ～6月25日(日) ※会場：渋沢栄一記念館	渋沢栄一と尾高惇忠は、政治経済や産業での功績が知られているが、書画に関してもともに熱心であったことがうかがえる。渋沢栄一記念館が所蔵する絵画資料、歴史と民俗の博物館が所蔵する栄一と惇忠に関する書や絵画を展示する。 開催日数：59日 展示資料：21点 [関連事業] ・講演会 5月21日(日) ・展示解説 5月13日(土)、6月10日(土) ・出張販売 講演会、展示解説と同日に図録等を販売
文化遺産調査活用事業報告展示 「巡り・廻りの民俗行事」 令和6年1月30日(火) ～3月3日(日)	平成28年度から継続して実施している文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査事業「巡り・廻りの民俗行事」(Ⅰ期)の成果として「廻り地蔵」「大般若経の巡行行事」「玉敷神社のお獅子さま」等の行事を、また現在取り組んでいる第Ⅱ期調査について紹介する。 開催日数：31日 展示資料：約20点 [関連事業] ・歴史民俗講座 令和6年2月23日(金・祝) ・展示解説 令和6年2月10日(土)

(3) 令和6年度開催予定特別展・企画展の準備

令和6年度に開催する予定の展覧会の準備を進める。

6 生涯学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座(2回)

期日：11月26日(日)、2月23日(金・祝) 各日とも14:00～15:30

対象：一般

定員：各162名

② 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

期日：令和6年2月17日(土)、2月24日(土)、3月2日(土)、3月9日(土)

対象：一般

③ 民俗工芸実演

・花火作り

期日：11月5日(日)

対象：一般

- ④ 出張講座 あなたの街にも「れきみん埼玉」（５回）
期日 ５月２７日（土）県立久喜図書館
６月１８日（日）県立熊谷図書館
７月２６日（水）川越地方庁舎（ウェスタ川越）
８月 １日（火）県立久喜図書館
８月２５日（金）川越地方庁舎（ウェスタ川越）

対象：一般

定員：各会場による

（２）実習・研修等の受入れ

- ① 博物館見学実習
期間：１０～３月（随時受入れ）
② 中学生職場体験
期間：１０～３月（随時受入れ）
③ 高校生インターンシップ
期間：１０～３月 ２～３日間
④ 教員研修等の受入れ
期間：１０～３月（随時受入れ）

（３）学校団体の受入れ

- ① 学校連携（来館対応）
期間：１０月～３月（随時受入れ）
対象：小・中・高等学校、特別支援学校等
② 学校連携（出前授業）
期間：通年（随時受入れ）
対象：小・中・高等学校、特別支援学校等
③ ICTを効果的に活用した学校連携の検討
期間：通年（随時受入れ）
対象：小・中学校、特別支援学校等

（４）デリバリー事業等の実施

- ① 県政出前講座
② 市町村等連携

（５）ボランティアの受入れ

- ① 体験学習ボランティアの育成と運営
② 展示解説ボランティアの育成と運営
ボランティアによる常設展の展示解説を、開館期間中、原則毎日行う。

7 ゆめ・体験ひろば事業

（１）「ものづくり工房」通常体験メニュー

期日：１０月１４日（土）～３月３１日（日）
対象：児童・生徒・一般（未就学児は保護者同伴）
定員：メニューにより定員あり（事前予約受付）

- ① 藍染めハンカチ 事前予約受付
② 江戸組紐ストラップ・ブレスレット 事前予約受付
③ 絵馬
④ 歴史ぬりえ
⑤ ミニ絵巻物
⑥ まが玉 事前予約受付
⑦ 浮世絵スリスリマシン
⑧ 季節のミニアート
⑨ コバトンペーゴマ

(2)「ものづくり工房」特別体験メニュー

- ① 藍の型染めミニトートバッグ作り
期日：11月23日（木・祝）、24日（金）
対象：大人
定員：10名
- ② 16玉丸源氏組のめがね紐とキーホルダー作り
期日：12月1日（金）
対象：大人
定員：15名
- ③ 木版浮世絵を摺る
期日：12月20日（水）、1月31日（水）
対象：大人
定員：各日6名（各日2回実施・定員各回3名）
- ④ ミニ銅鏡作り
期日：1月27日（土）
対象：小学生以上
定員：16名（2回実施・定員各回8名）
- ⑤ 16玉ゆるぎ組の帯締め作り
期日：2月9日（金）、16日（金）（2回連続）
対象：大人
定員：15名
- ⑥ 型付け藍染め体験
期日：2月24日（土）
対象：大人
定員：12名

(3)「昭和の原っぱ」イベント

- ① ベーゴマ教室
期日：10月28日（土）
対象：小学生以上
定員：12名
- ② 博物館春まつり
ポン菓子づくりの実演
期日：3月16日（土）
対象：児童・生徒・一般

(4) その他特別体験事業

- ① 十二単・小桂と男子装束の着装体験
期日：11月18日（土）、1月13日（土）、3月9日（土）
対象：小学生以上、男子装束は高校生以上
定員：各日6名
- ② 火おこし体験教室
期日：12月9日（土）2月10日（土）
対象：小学生以上
定員：各日24名（1日4回実施・定員各回2組・1組3名）
- ③ お囃子体験教室「さんてこ囃子」
期日：2月3日（土）
対象：一般
定員：20名

(5) 出張ものづくり体験 あなたの街にもゆめ・体験ひろば

期日 5月 3日（水・祝）4日（木）まが玉づくり@さいたま市国際友好フェア
5月20日（土）藍染めハンカチづくり@県立さきたま史跡の博物館

6月10日（土）まが玉づくり@県立自然の博物館
7月23日（日）まが玉づくり@県立近代美術館
8月 8日（火）ミニ絵巻物づくり@県立嵐山史跡の博物館
8月18日（金）ミニ絵巻物づくり@県立文書館

対象 一般

定員 各会場による

（6）博物館クルーの育成・活用

「ゆめ・体験ひろば」等の体験メニューや博物館の事業の運営に協力するための高度な技術を持つ人々を育成し、活用する。

（7）キッズクルーの募集

将来の埼玉文化の継承者や良き博物館利用者の育成及びゆめ・体験ひろば等における子供対象事業への参加促進を図るため、「キッズクルー」の募集を行う。

対象：県内在住の小学生中心

8 その他の主催事業

（1）県民の日イベント

唐破風 お囃子LIVE！！2023

期日 11月14日（火・県民の日）

対象 一般

（2）正月臨時開館関連事業

①「博物館でお正月」福笑い

期日 1月2日（火）

②「博物館でお正月」投扇興

期日 1月3日（水）

③「博物館でお正月」羽根つき、絵馬パズル、独楽回し、すごろく

期日 1月2日（火）～3日（水）

（3）出張パネル展示～れきみん埼玉を知っていますか～

期日 3月15日（水）～ 4月14日（金） 埼玉県庁舎3階渡り廊下

5月 3日（水）～ 5月 4日（木） 国際友好フェア

5月16日（火）～ 5月28日（日） 久喜図書館

5月27日（土）～ 7月30日（日） 熊谷図書館

7月19日（水）～ 8月 1日（火） 久喜図書館

10月 2日（月）～10月31日（火） 埼玉県庁舎3階渡り廊下

（4）博物館裏方探検隊

普段見ることのできない博物館のバックヤードを学芸員が案内する。

原則毎週土曜日の午後実施 対象：一般 定員：なし

9 関係団体・機関との連携等

（1）埼玉県博物館連絡協議会の運営等（会長・事務局）

① 総会・役員会・研究会・見学会等の開催

② ホームページの管理・運営

（2）関東地区博物館協会の運営（埼玉県代表幹事館）

（3）全国歴史民俗系博物館協議会の運営（関東ブロック幹事館）

（4）日本博物館協会の活動（参与）

（5）埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会との連携・交流

（6）県政出前講座の受け入れ

- (7) 埼玉県文化財保護協会等の県内文化財関係団体との共催による講習会・研修会の開催
- (8) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会の運営（会長・事務局）
- (9) 埼玉大学と連携し、県民向け連続講座「ミュージアムカレッジ」を開催
- (10) 首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2023」への参加
- (11) 埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
- (12) その他関係団体・民間企業との連携

10 広聴広報

- (1) 広聴
 - 講座・講演会・特別展等アンケートの実施
- (2) 広報
 - ① イベントガイド・博物館だより・ポスターほか
 - ② 彩の国だより・県教委だよりほか
 - ③ 新聞・雑誌・テレビ・ラジオほか
 - ④ インターネット・SNSによる情報発信
 - ⑤ 当館ホームページの管理・運営
 - ⑥ イベントブース出展、自治会回覧等による地域広報
- (3) レファレンスサービス

11 各種印刷物の刊行

- (1) 『紀要』第18号
- (2) 展示図録等
- (3) その他
 - ① 令和6年度イベントガイド
 - ② 令和5年度要覧
 - ③ 博物館だより web 版（年間3回発行）
 - ④ 学校と博物館の連携利用案内（令和6年度版）
 - ⑤ 無形民俗文化財調査事業 巡り・廻りの民俗行事（第Ⅱ期）調査概報Ⅵ

12 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期する。なお、老朽化した施設の大規模改修のため、令和4年12月5日（月）から令和5年10月13日（金）までの予定で全面休館。令和5年2月1日（木）に本格的に着工し、令和5年9月15日（金）までを工期としている。

※主な工事内容：空調設備の更新、展示室の改修、展示ケース内等の LED 照明への更新など

令和4年度 事業報告

1 調査研究事業

分野ごとの基礎的・分類的・形態学的調査研究、展示・教育・運営等博物館活動の諸分野に関する研究、資料の収集・保存に関する技術的研究など、博物館活動の基礎となる調査研究のほか、次の事業を行った。

- (1) 常設展示資料に関する調査研究
- (2) 『紀要』第17号の編集、刊行(300部)
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業「巡り・廻りの民俗行事」(第Ⅱ期)「玉敷神社のお獅子さま」の調査の実施、映像記録「玉敷神社のお獅子さま」の制作
- (4) 文化遺産調査活用事業 歴史遺産調査研究事業『新編武蔵風土記稿』総合調査の実施
- (5) 次年度開催特別展に関する調査研究
- (6) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム学芸員合同研究発表会への参加

2 資料の収集・保存・管理事業

常設展示や特別展示等の充実及び人文系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集基準及び資料評価会議の指導に基づき資料を収集した。

また、資料の虫菌害対策や、保存環境の整備のため、定期清掃等の総合的有害生物管理(IPM)を実施した。

(1) 資料の収集

新規受入れ資料として43件254点を収集した。

① 購入(32件87点)

・狭山繁田園絵葉書	1点
・徳川家慶日光社参関係記録	3点
・秩父札所案内絵図	1点
・秩父二十八番石龍山橋立寺奥院岩窟絵図	1点
・錦絵裁縫教授之図(1点3枚)	3枚
・鳥瞰図 大宮	1点
・鳥瞰図 秩父鉄道沿線案内	1点
・新刻太平記	21点
・足軽胴 黒漆塗二枚桶側胴(蛇の目)	1領
・足軽胴 黒漆塗二枚桶側胴(笹)	1領
・足軽胴 黒漆塗二枚仏胴	1領
・黒漆塗鉄製陣笠(三段昇り梯子)	1領
・所沢織物同業組合絵はがき(附封筒1枚)	3点
・埼玉県茶業研究所 増築竣工記念(附封筒1枚)	5点
・埼玉県立杉戸農業学校絵葉書(附封筒1枚)	8点
・古文書 川越松山往還 武州伊草宿関係資料	13点
・掛軸 森玄黄斎画「鍾馗図」	1点
・日光御参詣一件并駿府勤方有増扣	1点
・源氏見立八景ノ内 浮船ノ帰帆	1点
・源氏見立八景ノ内 野分ノ晴嵐	1点
・源氏見立八景ノ内 空蟬暮雪	1点
・源氏見立八景ノ内 明石ノ秋の月	1点
・源氏見立八景ノ内 品定夜の雨	1点
・源氏見立八景ノ内 花宴晩鐘	1点

- ・源氏見立八景ノ内 紅葉賀ノ夕照 1 点
- ・木曾六十九駅 蔵 蔵手村 1 点
- ・木曾街道六十九次之内 日本橋 1 点
- ・木曾六十九駅 御嶽 行平塚 1 点
- ・江戸むらさきあづまの写し絵 朝顔 三枚続 (源氏絵) 3 点
- ・四季之内春 御庭の遊覧 三枚続 (源氏絵) 3 点
- ・春夜乃御遊 三枚続 (源氏絵) 3 点
- ・教導立志基 塙保己一 1 点

② 受 贈 (10 件 161 点)

- ・足輕胴・陣笠 2 点
- ・「狩途図」(絵画) 1 点
- ・「八嶋浦大合戦図之図 熊谷次郎直実」(絵画) 1 点
- ・船渡の張り子 17 点
- ・押絵羽子板面相師・高瀬家関係資料 118 点
- ・第22回国民体育大会関係資料 16 点
- ・札幌オリンピック記念公式プラチナメダル 1 点
- ・御産物木綿預手形 1 点
- ・引札 3 点
- ・絵葉書 1 点

③ 保管転換 (1 件 6 点)

- ・東京オリンピック・パラリンピック2020メダル 6 点

(2) 資料の整理・保存・管理

① 資料管理

- ・I PM推進委員会の開催 4月7日(木)、3月20日(月)
- ・収蔵庫定期清掃 月2回(原則第2・4木曜日)
- ・有害生物生息状況調査(館内、嵐山史跡の博物館、文化財収蔵施設) 月1回(原則月末火曜日)
- ・収蔵庫ほか忌避剤散布 5月24日(火)～25日(水)
9月12日(月)～13日(火)
令和5年3月18日(土)～20日(月)
- ・搬入展示資料等の燻蒸 8月 9日(火)～24日(水)
10月 4日(火)～ 6日(木)
10月 6日(木)～20日(木)

② 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等に所在する当館所蔵の民俗資料の管理

- ・収蔵庫定期清掃 年間9回(予定)
- ・有害生物生息状況調査 月1回(原則月末水曜日)

③ 資料の修理

- ・猫絵 1 幅
- ・角行像 1 軀

(3) 資料の貸出、特別利用(フィルム等の貸出、資料の熟覧等)

- ① 貸出 小峰城歴史館、さいたま市人形博物館ほか 7 件 (28 点)
- ② 特別利用 テレビ朝日、NHK出版ほか 102 件 (526 点)

3 常設展示事業

「埼玉における人々の暮らしと文化」をメインテーマに、総合的な視野で時代の推移が理解できる

展示に努めた。また、調査や研究に基づく展示替えや特別公開などにより、展示内容の充実を図った。

(1) 展示替え

① 美術展示（第4室）

「美術と身体」	3月29日（火）～5月22日（日）
「美術と武士」	5月31日（火）～7月31日（日）
「伊東深水和近代版画」	8月2日（火）～9月4日（日）
「古美術名品選」	9月6日（火）～12月4日（日）

② 歴史特集展示

第9室「埼玉遊覧～春～」	3月29日（火）～5月22日（日）
第3室「鎌倉殿と武蔵武士」	5月31日（火）～7月31日（日）
第9室「渋沢栄一と鉄道～鉄道開業150年～」	5月31日（火）～9月4日（日）
第8室、第9室「新編武蔵風土記稿と文化財」	9月6日（火）～12月4日（日）
第3室「国宝太刀・短刀の公開」	10月4日（火）～12月4日（日）

③ 民俗コラム展示（第10室）

「お節句祝い」	3月1日（火）～5月22日（日）
「竹細工」	5月31日（火）～9月4日（日）
「養蚕の道具」	9月6日（火）～12月4日（日）

④ 季節展示（季節展示室）

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施した。

「企画展 埼玉武術英名録」	3月19日（土）～5月8日（日）
「kid's考古学新聞コンクール 2022年度全国巡回展」	6月11日（土）～7月18日（月・祝）
「新収集品展2020・2021」	8月2日（火）～9月4日（日）
「秋の意匠」	9月8日（木）～10月2日（日）
「企画展 銘仙」	10月15日（土）～12月4日（日）

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日を目安に展示替えを実施した。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華経一品経（ときがわ町・慈光寺）

11月1日（火）～12月4日（日）第4展示室

国宝 太刀 10月4日（火）～12月4日（日）第3展示室

国宝 短刀 10月4日（火）～12月4日（日）第3展示室

「刀剣乱舞—ONLINE—」コラボレーション企画

コラボ期間 10月4日（火）～12月4日（日）

「刀剣男子『謙信景光』等身大パネルおよび描き下ろしイラストの展示」

「入場者特典（A5クリアファイル）の配布」

「刀剣乱舞万屋本舗ミニ出張所の展開」

重文 熊野神社境内古墳出土品（桶川市・熊野神社）

4月1日（金）～12月4日（日）第2展示室

重文 大般若経（日高市・高麗神社） 8月2日（火）～12月4日（日）第3展示室

重文 絹本着色釈迦三尊及阿難迦葉像（越生町・法恩寺）

5月31日（火）～6月26日（日）第4展示室

重文 絹本着色阿弥陀聖衆来迎図（熊谷市・常光院）

6月28日(火)～ 7月31日(日)第4展示室

重文 宋版一切経（川越市・喜多院）

7月26日(火)～ 9月 4日(日)第7展示室

重文 雲版（飯能市・長光寺）

8月 2日(火)～10月 2日(日)第3展示室

重文 銅造阿弥陀如来立像（神川町・光明寺）

9月 6日(火)～10月30日(日)第4展示室

重文 三十六歌仙額（川越市・仙波東照宮）

9月 6日(火)～10月 2日(日)第4展示室

重文 絹本着色高野明神像・丹生明神像（越生町・法恩寺）

11月 1日(火)～12月 4日(日)第4展示室

（3）重要有形民俗文化財の展示

北武蔵の農具

9月 6日(火)～12月 4日(日)第10展示室

4 特別展示・企画展示事業

当館の主催又は関係団体との共催により、特定のテーマに基づいて資料を収集・構成し、特色ある特別展・企画展を開催した。

（1）企画展「埼玉武術英名録」

期 日 令和4年3月19日（土）～5月8日（日）

趣 旨 武術・武道は、日本の運動文化を体現する無形の文化遺産である。江戸時代中期以降、埼玉県域でも本格的な武術指導を行う諸流派が登場し、多くの人々が入門した。剣術・柔術を中心とする、埼玉県ゆかりの武術諸流派や歴史上に名をのこした武芸者などを紹介。

展示資料総数 172点

開館日数 46日（令和4年度34日）

会期中観覧者 4,655名

[関連事業]

・記念講演会Ⅰ 「埼玉の剣術」

期 日 3月27日（日）

講 師 大保木 輝雄氏（埼玉大学名誉教授）

参加者 65名

・記念講演会Ⅱ 「埼玉の柔術」

期 日 4月17日（日）

講 師 藤堂 良明氏（筑波大学名誉教授）

参加者 63名

・歴史民俗講座「埼玉武術英名録—展示資料を中心に—」

・期 日 4月30日（土）

講 師 根ヶ山 泰史（当館学芸員）

参加者 65名

・見どころ解説

期 日 3月21日（月・祝）、~~4月10日（日）~~、4月24日（日）、5月7日（土）

参加者 19名

中止

15名

14名

（2）共催展「昌国寺」

期 日 4月16日（土）～6月5日（日）

※当初予定 令和4年3月19日（土）～5月8日（日）を順延して実施した。

共催・会場 鉢形城歴史館

趣 旨 当館は、古くから昌国寺（寄居町赤浜）が所蔵する資料を受託しており、常設展示でそ

の一部を活用してきたが、昌国寺そのものについて踏み込んで紹介する機会がなかった。
この展覧会では、寄居町鉢形城歴史館と共催し、地元の寄居町で旗本水野家ゆかりの昌国寺の什物や古文書を一堂に公開した。

展示資料総数 34点

開館日数 44日

会期中観覧者 3,436名

[関連事業]

- ・歴史講座 「鉢形北条氏と水野長勝」
期 日 4月30日(土)
講 師 石塚三夫氏(鉢形城歴史館長)
参加者 44名
- ・歴史講座 「昌国寺と旗本水野家」
期 日 5月7日(土)
講 師 中村陽平氏(埼玉県立嵐山史跡の博物館 学芸員)
参加者 43名
- ・現地見学会
期 日 5月8日(日)
参加者 25名

(3) 「発掘された日本列島2022」

期 日 6月11日(土)～7月18日(月・祝)

趣 旨 毎年全国で9,000件以上行われている発掘調査のうち、近年特に注目された成果を広く公開することにより、埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深めるための全国巡回展を文化庁と共催で実施した。合わせて、県内の史跡を紹介する地域展「埼玉の史跡」を開催。県内外からの来館者に埼玉を代表する文化財を広く紹介することで、本県の魅力発信を行った。

展示資料総数 約683点(中核展539点、地域展144点)

開館日数 33日

会期中観覧者 6,758名

[関連事業]

- ・歴史民俗講座 「「発掘された日本列島2022」の見どころ」
期 日 7月2日(土)
講 師 大澤 正吾氏(文化庁)、堀口 智彦(当館学芸員)
参加者 62名
- ・関東考古学フェア遺跡発表会「発掘された関東の遺跡」
期 日 6月26日(日)
主 催 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関東ブロック協議会
参加者 71名
- ・kid's 考古学新聞コンクール 2022年度全国巡回展
期 日 6月11日(土)～7月18日(月・祝)
主 催 kid's 考古学研究所

(4) 「新収集品展2020・2021」

期 日 8月2日(火)～9月4日(日)

趣 旨 令和2年度及び3年度に御寄贈や購入により新たに収集した博物館資料のうち代表的なものを紹介した。

展示資料総数 65点

開館日数 31日

会期中観覧者 2,818名

(5) 企画展「銘仙」

期 日 10月15日(土)～12月4日(日)

趣 旨 明治時代以降、国策として養蚕業・製糸業の近代化が進み、秩父、伊勢崎、足利など北関東地方の養蚕業や織物業が盛んな地域では、くず糸を使用した「銘仙」の生産に力を入れ、人々に親しまれた。本展では当館に寄贈された銘仙コレクションを中心に、県内でも隆盛を極めた養蚕業、製糸業もクローズアップした。

展示資料総数 205点

開館日数 45日

会期中観覧者 9,896名

[関連事業]

・記念講演会「銘仙今昔物語」

期 日 10月29日(土)

講 師 木村和恵氏(花織人・銘仙語り部)

参加者 61名

・歴史民俗講座「人の一生と銘仙」

期 日 11月12日(土)

講 師 町田 歩未(当館学芸員)

参加者 61名

・特別企画「銘仙ファッションショー in 歴民」

期 日 11月6日(日)

出 演 埼玉県立越谷総合技術高等学校 服飾デザイン科

協 力 レンタル銘仙イロハトリ

参加者 57名

・民俗工芸実演 高機実演

期 日 11月20日(日)

講 師 岩野 倫世氏(秩父市地域おこし協力隊)

参加者 118人

・見どころ解説

期 日 10月23日(日)、11月23日(水・祝)、12月3日(土)

参加者 29名

34名

53名

5 生涯学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座

・「埼玉武術英名録―展示資料を中心に―」

期 日 4月30日(土)

講 師 根ヶ山 泰史(当館学芸員)

参加者 65名

・「発掘された日本列島2022のみどころ」

期 日 7月2日(土)

講 師 大澤 正吾氏(文化庁)、堀口 智彦(当館学芸員)

参加者 62名

・「人の一生と銘仙」

期 日 11月12日(土)

講 師 町田 歩未(当館学芸員)

参加者 61名

② 民俗芸能講習会「江戸里神楽 おかめ・ひょっとこの舞」

期 日 6月4日(土)、11日(土)、18日(土)、25日(土) 全4回

受講者 18名(のべ65名)

③ 民俗工芸実演

・川口和竿作り

期 日 7月17日(日)

講 師 山野 正幸氏(山野和竿店)

参加者 38名

・高機実演

期 日 11月20日(日)

講 師 岩野 倫世氏(秩父市地域おこし協力隊)

参加者 118名

④ 第12回学芸員合同研究発表会ミュージアムフォーラム

期 日 1月21日(土)

講 師 君島 勝秀(当館主席学芸主幹)「縄文人の漆生活と漆掻きについて」

堀口 智彦(当館学芸員)「床下に納められた祈り―秩父市円融寺採集の礫石経について―」

参加者 72名

会 場 埼玉県立さきたま史跡の博物館

(2) 実習・研修等の受入れ

① 博物館学芸員実習

9月1日(木)、2日(金)、6日(火)～9日(金)

実習及びレポート等の課題提出

青山学院大学など15大学 20名

② 博物館見学実習

学習院大学など5大学 83名

③ 中学生職場体験

さいたま市立西原中学校など5校20名 延べ10日間

④ 高校生インターンシップ

受入れなし

⑤ 大学生インターンシップ

受入れなし

⑥ 教員向け研修の受入れ(教育利用セミナー)

・県立高校初任者研修(職場体験)

期日 8月 2日(火) 参加者 1名

・博物館教育利用セミナー

期日 8月23日(火) ※新型コロナウイルス感染拡大防止(集合研修規制)のため中止

・博物館活用講座(文化資源課共催)

期日 11月11日(金) 参加者32名

⑦ その他研修の受入れ

なし

(3) 学校団体の受入れ

① 学校連携(来館対応)

小学校63校(特別支援学級4を含む)、中学校5校(特別支援学級2を含む)、高校2校、特別支援学校6校、保育園1園、その他学校関係3団体(教育相談室2 フリースクール1) 計80校

② 学校連携(出前授業)

伊奈町立小室小学校など 64件 参加者4,446名(幼稚園1、公民館1含む)

③ 「主体的・対話的で深い学び」の博物館利用の検討

(4) デリバリー事業等

① 県政出前講座

公民館主催事業(熊谷市中央公民館)など 3件 参加者 36名

② 講座・講演講師派遣

埼玉県茶業研究所、埼玉県立久喜図書館、埼玉未来大学（（公財）いきいき埼玉）など
16件 参加者 1,102名

(5) ボランティアの受入れ

① ボランティア活動、養成講座

ア ボランティア活動

・体験学習ボランティア 84名登録

まが玉づくり・藍染めハンカチ・組紐ストラップ・学校団体などの体験学習指導補助、スキルアップ研修等

延べ活動日数 215日 延べ活動人数 1,198名

・展示解説ボランティア 61名登録

常設展の展示解説を開館期間中実施した。

延べ活動日数 211日 延べ活動人数 765名

イ ボランティア研修

ボランティア養成のための専門的講座及び実践的な研修を実施した。

体験学習ボランティア 延べ開催日数 11日 延べ参加人数 80名

展示解説ボランティア 延べ開催日数 1日 延べ参加人数 14名

6 ゆめ・体験ひろばの運営

それぞれ特色のある機能と設備を持つ3つのエリアで、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、子どもから高齢者、初心者からリピーターまでさまざまな参加者を対象に実施している。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常体験メニューのまが玉、藍染めハンカチ、組紐ストラップ等は予約制を継続した。感染対策制限緩和に伴い、6月21日（火）からものづくり工房の体験人数の上限緩和や持ち帰り用として材料販売のみを行っていた通常体験メニュー（絵巻物）など順次再開した。7月21日（木）からは自由自在座のハンズオンも再開した。特別体験事業は、感染対策を講じて実施し、それでも実施困難な事業は中止した。

(1) 「ものづくり工房」通常体験メニュー

① 藍染めハンカチ	1,489名	※予約制で実施
② 江戸組紐ストラップ等	401名	※予約制で実施
③ 絵馬	14名	※材料の販売のみ
④ 歴史ぬりえ	35名	
⑤ ミニ絵巻物	181名	
⑥ まが玉	2,171名	※予約制で実施
⑦ 浮世絵スリスリマシン	156名	
⑧ 季節のミニアート	348名	
⑨ コバトンペーゴマ	26名	
合計	4,821名	

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 藍の絞り染め風呂敷作り		
期 日	5月12日（木）	参加者 8名
② 木版浮世絵を摺る		
期 日	6月 2日（木）	参加者 6名
期 日	8月26日（金）	参加者 5名
③ 藍の型染めミニトートバッグ作り		
期 日	6月22日（水）	参加者 8名
④ ミニ銅鏡作り		
期 日	6月25日（土）	参加者 15名

- ⑤ 藍の生葉染めストール作り
期 日 7月14日(木) 参加者 8名
- ⑥ 夏休み子ども組紐教室「金剛組のキーホルダーづくり」
期 日 7月28日(木) 参加者 8名
期 日 7月29日(金) 参加者 8名
- ⑦ 淡路結びのネックレス作り
期 日 10月14日(金) 参加者 8名
- (3) 「昭和の原っぱ」イベント等
 - ① 博物館子どもまつり
大空およげ! こいのぼりメッセージ
期 日 4月29日(金・祝)～5月6日(金) 参加者 278名
紙芝居実演
期 日 5月 5日(木・祝) 参加者 82名
青空まが玉教室
期 日 5月 5日(木・祝) 参加者 27名
 - ② ベーゴマ教室
期 日 10月22日(土) 参加者 12名
- (4) その他の特別体験事業
 - ① 十二単・小桂と男子装束の着装体験
期 日 5月14日(土) 参加者 6名
期 日 7月 9日(土) 参加者 5名
期 日 9月24日(土) 参加者 6名
期 日 11月12日(土) 参加者 6名
 - ② お囃子体験教室「さんてこ囃子」
期 日 7月16日(土) 参加者 10名
期 日 10月15日(土) 参加者 19名
 - ③ 博物館で超(スーパー)きもだめし
期 日 8月18日(木) 参加者 23名
期 日 8月19日(金) 参加者 16名
 - ④ チームでチャレンジ 火おこし体験教室
期 日 11月 5日(土) 参加者 20名

7 その他の主催事業

- (1) 県民の日イベント「屋台囃子の演奏」
期 日 11月14日(月) 参加者 311名
- (2) 博物館裏方探検隊
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中断していたが7月23日(土)から再開。
原則、毎週土曜日に博物館のバックヤードを紹介。 20回 参加者 144名

8 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会(会長)・運営等(事務局)
 - ① 総会・役員会・見学会・研究会等の開催
 - ② 「埼玉県博物館連絡協議会 加盟館園マップ」の作成(15,000部)
 - ③ ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営等(埼玉県代表幹事館)
 - ① 総会、理事会、研究会出席、スタンプラリーへの参加
 - ② 機関誌「関東の博物館」第47号の編集および発行事務

- ③ 埼玉県内加盟館との調整
- (3) 全国歴史民俗系博物館の運営（関東ブロック幹事館）
総会（書面開催）への参加
- (4) 日本博物館協会（参与）
全国博物館大会等への参加
- (5) 「博物館友の会」との連携・共催事業の実施
- ① 講演会
- ・「鎌倉時代入門－大河ドラマをもっと楽しむために－」
期 日 5月22日（日）
講 師 森内 優子 氏（県文化資源課主幹）
参加者 81名
 - ・「縄文のタイムカプセル！！デーノタメ遺跡について」
期 日 7月10日（日）
講 師 坂田 敏行 氏（北本市教育委員会主査）
参加者 81名
 - ・「足立遠元のこと」
期 日 10月2日（日）
講 師 藤沼 昌泰 氏（桶川市文化財課主席主幹）
参加者 81名
 - ・「縄文貝塚と埼玉の遺跡」
期 日 11月30日（水）
講 師 君島 勝秀（当館主席学芸主幹）
参加者 61名
 - ・「縄文海進と黒浜貝塚群」
期 日 1月29日（日）
講 師 小宮 雪晴 氏（蓮田市生涯学習部長）
参加者 60人
会 場 蓮田市中心公民館
 - ・「神明貝塚」水辺と森に育まれた縄文のムラ
期 日 2月22日（水）
講 師 森山 高 氏（春日部市文化財保護課主幹）
参加者 71名
会 場 市民会館おおみや
- ② プレミアム講座
- ・「中世城館の見方・歩き方」
期 日 7月1日（金）
講 師 堀口 智彦（当館学芸員）
参加者 70名
 - ・「人の一生と銘仙」
期 日 10月26日（水）
講 師 町田 歩未（当館学芸員）
参加者 34名
- (6) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会による連携事業の実施
平成23年度に近隣9施設で活動を開始した「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会による連携事業として、下記の事業を実施した。
- ・「大宮公園大掘りまつり」へのブース出展及びウォーキングツアーの実施
期 日 11月3日（木・祝）、4日（金）※ウォーキングツアーは11月3日（木・祝）のみ実施
参加者 257名

- ・キーワードラリーの実施
期 日 11月26日(土)～2月12日(日)
- (7) 連携事業等
 - ・埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
 - ・首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2022」への参加
- (8) その他事業の共催
 - ① 文化財講習会 共催団体：埼玉県教育委員会、埼玉県文化財保護協会
期 日 8月2日(火)・3日(水)
参加者 72名
 - ② 文化財レスキュー・防災研修会
共催団体：埼玉県文化財保護協会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会
期 日 2月14日(火)
参加者 29名
会 場 さいたま共済会館

9 広聴広報

- (1) 広聴
 - ① 特別展・企画展等のアンケートの実施
 - ② 博物館利用者アンケートの実施
利用者アンケートの結果をフィードバック
- (2) 広報
 - ① 当館刊行物、県刊行物による広報のほか、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等による広報を積極的に行うとともに、インターネット・SNSによる情報発信を行った。
 - ② 「大盆栽まつり」、「大宮区民ふれあいフェア」、「大宮公園大掘まつり」「西区ふれあいまつり」にブース出展し、パンフレットの配布などの広報活動を行った。
 - ・大盆栽まつり 5月3日(火・祝)～5日(木・祝)
 - ・大宮区民ふれあいフェア 10月29日(土)
 - ・大宮公園大掘まつり 11月3日(木・祝)、4日(金)
 - ・西区ふれあいまつり 11月12日(土)
- (3) レファレンスサービス(294件)
博物館の利用に関する相談、埼玉の歴史・考古・民俗・美術に関する学習相談、情報提供、特別展・企画展・常設展の内容等照会、体験学習の指導・助言等の実施。

10 令和4年度印刷刊行物等一覧

※[]内は販売価格。記載のないものは無料配布

- (1) 紀要第17号[1, 100円] 300部
- (2) 展示図録等
 - 地域展「埼玉の史跡」リーフレット 5,000部
 - 「新収集品展2020・2021」リーフレット 1,000部
 - 企画展「銘仙」リーフレット 5,000部
- (3) 令和5年度イベントガイド 15,000部
- (4) 令和4年度博物館要覧 110部
- (5) 博物館だより web版(第48号・第49号・第50号)
- (6) 授業に役立つ博物館活用ガイド(令和5年度版) 7,000部
- (7) 巡り・廻りの民俗行事(第Ⅱ期)調査概報V[900円] 300部

1 1 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期した。

(1) 防災訓練（消防、地震） 9月29日（木）

2月27日（月）

(2) 自家用電気工作物電気保安検査 9月26日（月）

(3) 大規模改修工事

老朽化した施設の大規模改修のため、令和4年12月5日（月）から令和5年10月13日（金）までの予定で全面休館。令和5年2月1日（水）に本格的に着工し、令和5年9月15日（金）までを工期としている。

※主な工事内容：空調設備の更新、展示室の改修、展示ケース内等のLED照明への更新など

(4) 施設設備の保守業務委託、小破修繕の実施

令和4年度 利用者数

	開館 日数	利用者 合計 (A+B)	入館者数(A)							館外 活動 (B)	人
			合計 (C+D)	展示室観覧者(C)				入場者数 (D)			
				合計 (E+F)	有料(E)		無料(F)				
					小計	観覧料	円	小計	人		
	日	人	人	人	人	円	人	人	人	人	
4月	26	4,494	4,423	2,404	1,671	566,450	733	2,019	71		
5月	21	5,926	5,839	2,282	1,512	489,600	770	3,557	87		
6月	26	7,567	7,018	3,182	2,097	1,045,200	1,085	3,836	549		
7月	28	9,563	9,075	5,307	3,225	1,507,000	2,082	3,768	488		
8月	27	5,765	5,621	2,488	1,544	423,750	944	3,133	144		
9月	26	5,648	5,512	2,288	931	253,900	1,357	3,224	136		
10月	27	10,529	9,615	4,966	2,886	885,950	2,080	4,649	914		
11月	27	13,769	12,678	6,976	4,247	1,402,150	2,729	5,702	1,091		
12月	4	2,915	2,344	1,601	1,038	341,100	563	743	571		
1月	-	987	-	-	-	-	-	-	987		
2月	-	1,099	-	-	-	-	-	-	1,099		
3月	-	657	-	-	-	-	-	-	657		
年度計	212	68,919	62,125	31,494	19,151	6,915,100	12,343	30,631	6,794		

※1 館外活動(B)の主な内訳…出張授業や県政出前講座
 ※2 入場者数(D)の主な内訳…無料入場券を計上した数、ゆめ体験参加者、講座等参加者
 ※3 令和4年12月5日(月)～令和5年3月31日(土) 工事休館

(C)の参考		(D)の参考	
常設展 観覧者数	人	特別展 企画展 観覧者	人
350	2,054	217	1,383
957	1,325	211	1,656
666	2,516	159	1,186
1,065	4,242	228	1,709
2,488	-	103	1,841
2,288	-	65	1,993
2,352	2,614	315	2,830
1,148	5,828	840	3,376
147	1,454	63	615
-	-	60	-
-	-	71	-
-	-	-	-
11,461	20,033	2,332	16,589

展示概要等

■屋外展示

館庭は縄文時代と弥生時代の遺跡で、一部が県指定史跡となっている。発掘調査の成果をもとに弥生時代の竪穴住居を復元しており、その背後にある方形周溝墓は弥生時代後期の有力者の墓である。

■常設展示—埼玉における人々の暮らしと文化—

常設展示のメインテーマは「埼玉における人々の暮らしと文化」である。歴史を常に庶民の立場から見ていくという思想で貫き、庶民の力強さをダイナミックに表現することを基本姿勢としている。また、「見せる博物館」から「見る博物館」へ、「教える博物館」から「自ら学ぶ博物館」へをタッチフーズに、資料や研究データを通して観覧者と博物館が共に考えていこうという展示構成となっている。

プロローグ 大地に読む歴史

エントランスロビーの天井に届くようにそびえるのは、さいたま市大宮区の寿能泥炭層遺跡で確認された土層の模式断面である。各時代の遺物が出土状況に合わせてはめこまれ、各層の年代と各展示室で展開される展示内容とが対比できる歴史年表となっている。各展示室の入口には、この土層の断面をデザイン化した色別のパネルがあり、観覧の時間軸として利用できるようになっている。

第1展示室 旧石器～弥生時代

常設展示のはじまりは、埼玉の地にいつから人類が住み始めたかを考えるコーナーである。武蔵野台地や大宮台地を中心とした遺跡や出土遺物から旧石器文化を紹介する。内陸深く入りこんだ“奥東京湾”の周辺から出土した土器・漆器・木製品などから縄文人の暮らしを表現している。大陸から伝えられた稲作や新たな技術はやがて東国にも達する。コメづくりのムラが営まれ、ムラとムラをたばねる首長が成長していく弥生時代を、東日本の出土遺物の比較や方形周溝墓などから表現している。

第2展示室 古墳時代

古墳時代における畿内文化の伝播や大和政権を中心とする国づくりの様子、豪族・農民の生活を紹介する。埼玉（さきたま）古墳群の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（国宝）に刻まれた文字は、国づくりの過程で北武蔵地方の豪族が大王を補佐する役割を果たしたことを物語っている。当時の武器・武具・馬具や埴輪などを通して、大和政権による国づくりに果たした東国の“杖刀人（じょうとうじん）”＝武人の役割に焦点をあてた。また、鉄製の農具や工具など新技術を摂取して開発を進めていった人々の生活を取り上げている。

第3展示室 奈良～南北朝時代

「武蔵武士」を基本テーマとする。ここではまず、考古資料を用いて、律令制下における支配や人々の暮らしに関する展示を行う。平安時代に地方支配が動揺すると、各地で武装した領主層が台頭し始める。こうしたなか、県域では武蔵武士が登場する。その台頭過程や活躍ぶり、信仰や日常生活の様子などについて、工芸品・絵巻物・古文書・発掘資料などを使って紹介する。

第4展示室 美術展示室

埼玉県の歴史の流れ（通史）の中では紹介しきれない優れた美術工芸品を、「博物館の中の小さな美術館」である本室で集中的に紹介する。様々な作品を通して美の世界の広がり提示する。

第5展示室 室町～戦国時代

室町・戦国時代の北武蔵では、室町幕府と鎌倉府、戦国大名などの間で戦乱が繰り返された。ここでは、こうした「乱世」を生きた人々の姿をクローズアップする。歴史を彩る武将を輩出した古河公方足利氏・太田氏・北条氏という3家について、工芸品・古文書などを用いて紹介するとともに、こ

の時代の戦争を特徴づけた「足軽」と呼ばれる雑兵についても展示を行う。あわせて、中世における人々の暮らしと文化を取り上げる特集コーナーを設け、展示内容の充実を図っている。

第6展示室（展示ホール） 板碑

鎌倉から戦国時代末期にかけて盛んにつくられた板碑には、長い戦乱の中で暮らした人々の多くの願いが込められている。荒川上流で産出する緑泥石片岩を用いた武蔵の板碑は質量ともに全国一を誇り、武蔵武士の名が刻まれているものも少なくない。ここでは、それらの中から我が国最大・最小のもの、最古のものをはじめ、県内の代表的な板碑を紹介している。また、ときがわ町の慈光寺の開山塔は、室町時代初期の建築様式を伝える我が国現存最古の木造宝塔といわれており、その復原資料を展示している。

第7展示室 江戸時代Ⅰ

江戸幕府のお膝元となった埼玉における支配の特色を、大名・旗本などの領主とその農民支配の在り方、交通・宗教・文化などの制度を通して紹介する。領主については、川越・忍（行田）・岩槻・岡部に配置された大名と旗本に関する資料や城の模型を中心に展示している。農民の支配については、年貢制度や、日常生活の規制などを高札や古文書により表現している。また、中山道や日光道中、利根川に設けられた関所の様子、幕府の寺院統制やキリシタン禁制、学芸、科学、民間信仰などを取り上げている。

第8展示室 江戸時代Ⅱ

江戸時代の埼玉は、河川改修や用水路等の整備などにより、耕作地が増えて米の収穫量が増大した。そして、河川交通の発達とともに、各地で地場産業が盛んとなり、商品作物も作られるようになった。こうした様子は見沼代用水構造図や高瀬船模型・藍玉・紅餅・茶甕・運賃定書などを通して紹介している。また、幕藩体制が大きくゆらぎはじめる幕末の様子は、武州一揆や安政の大地震と水害・黒船来航などの資料によって紹介している。

第9展示室 明治時代～現代

明治期の埼玉は、政府の富国強兵の方針のもとでの殖産興業政策により、地場産業の近代化と産業基盤の整備を推進した。大正・昭和戦前期になると、大衆運動が盛り上がりを見せたが、昭和恐慌を契機にやがて長い戦争へと突入していき、県民・県土は疲弊した。敗戦後の埼玉は、産業・経済の復興をなしとげ、内陸型の工業県として目覚ましく発展した。ここでは、近現代埼玉の歩みを行政・産業・経済を中心に紹介するとともに、昭和30年代の暮らし、地場産業や郷土の発展に貢献した埼玉の人物をより詳細に取り上げている。

第10展示室 民俗展示室

民俗展示室は平成29年2月に全面的な展示替えを行い、「水と暮らし」というテーマで埼玉県における「水にまつわる民俗」を紹介している。展示は、「漁の知恵」「水と技の出会い」「水の力」「水と日々の暮らし」の4部構成で、川や湖沼での漁業をはじめ、水に関する産業や行事、祭りに関する資料などを紹介している。また、ミニテーマを設けて展示替えを行うコラム展示や、往時の農家の雰囲気再現した「農家のいろり」コーナーもある。

■特別展示室

企画テーマに沿った特別展などを開催する展示室である。年数回の特別展・企画展を開催し、毎回好評を博している。企画の内容は、より広い視点から埼玉の歴史と文化を比較・理解できるよう、県内だけではなく、関東あるいは全国を対象を広げてテーマを設定している。

■季節展示室

この展示室は、常設展示室と特別展示室を結ぶ場所に位置している。窓から野外の竹林・石灯籠を眺めることができ、安らぎの場となっている。小さな特集展示や特別展のサブ展示室としても活用される。

■ゆめ・体験ひろば

「ゆめ・体験ひろば」は、世代間交流ができる体験学習施設で、それぞれに特色ある機能と設備を持つ4つのエリアで構成されており、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様なプログラムを提供している。

第1エリア 自由自在座

入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し、自在に楽しむ体験展示として、浮世絵版画の工程を体験する「浮世絵スリスリマシン」、歌舞伎などで用いられる擬音楽器を使って楽しむ「日本の音で遊ぼう」、江戸時代の提灯や行灯をのぞき窓から覗く「灯りの今昔」、ヒモを引いて目や口を動かし複雑な仕掛けを理解する「人形芝居」などを設置している。

また、「昔のくらしと道具」のブースは、昭和30年代の農村の住居・町の住居の食卓や道具などの展示を見ながら、昔の生活道具を学べるコーナーとなっている。

第2エリア 学び文庫

本棚には、埼玉県にまつわる本や図録、歴史・民俗・芸術に関する一般書籍、子ども向けの学習まんがなどが並んでおり、調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧することができる。開館時間中はいつでも利用できる。

第3エリア ものづくり工房

「ものづくり工房」では、郷土に伝わる伝統文化のわざとところを、体験を通して学ぶことができ、藍染めや江戸組紐といった伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを、常時数種類体験することができる。通常体験メニューとは別に、藍染めストールや江戸組紐帯締めなど、成人対象の本格的な特別体験メニューも提供している。

第4エリア 昭和の原っぱ

屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などのディスプレイにより、昭和30～40年代のロケーションを再現したエリアが「昭和の原っぱ」である。

ここでは、ベーゴマやけん玉、フラフープといった昔懐かしい遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じて、「射的遊び」や「ポン菓子作り実演」などのノスタルジックイベントも開催する。

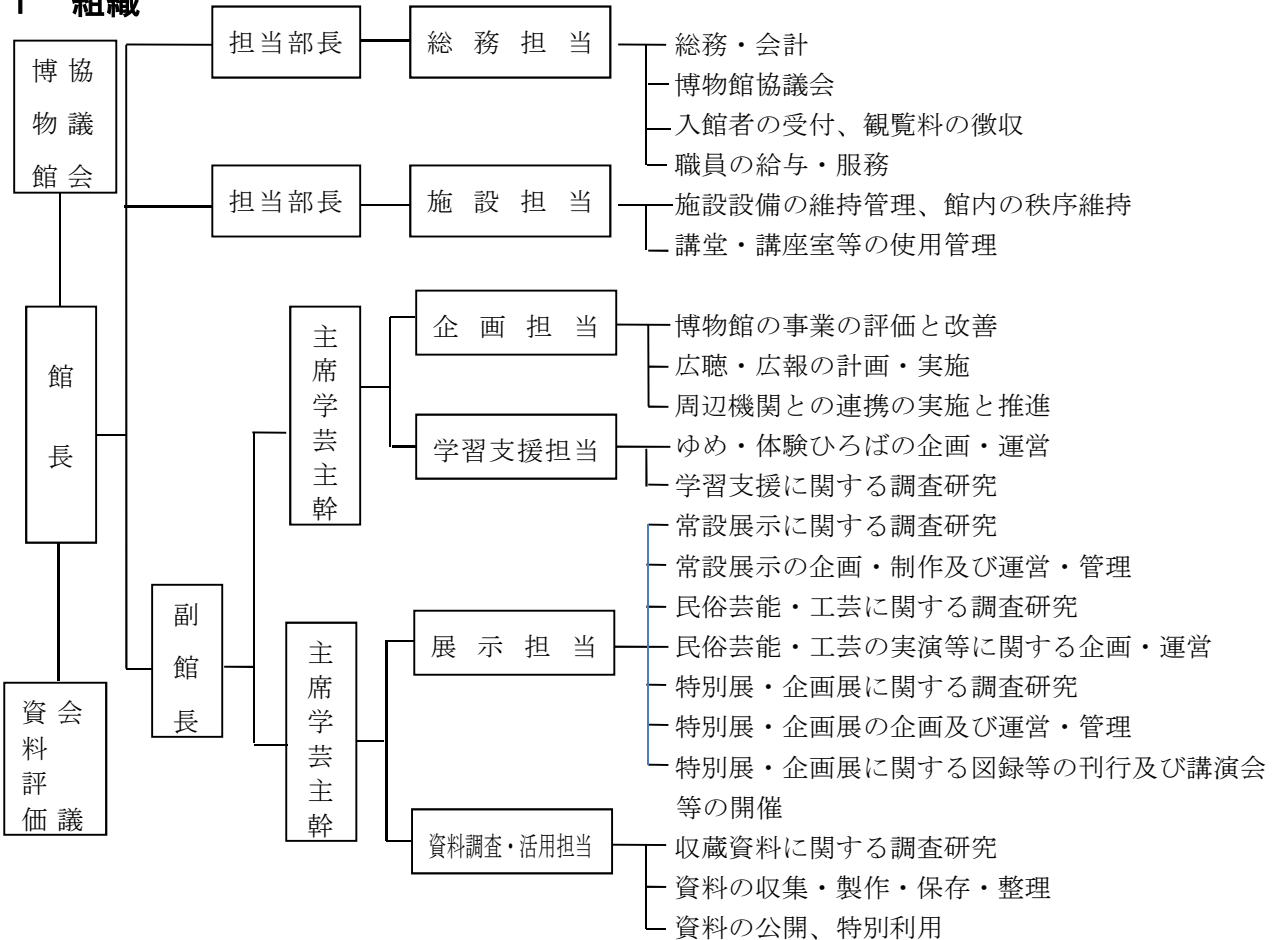
人それぞれに懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通じて世代間交流ができる空間を提供している。

このように、特色ある4つのエリアから成る「ゆめ・体験ひろば」では、入館者はもとより、専門分野を担う博物館クルーや体験ボランティアなどが運営のサポートにあたることにより、「だれもが主役になれる博物館」づくりを進めている。

また、各施設は、ユニバーサルデザインに基づき、「誰にもやさしい博物館」として、安全に楽しく見学や体験ができるようになっている。

組織及び職員構成（令和5年4月1日現在）

1 組織



2 職員名簿

職 名 氏 名

館 長 末 木 啓 介

◎総務、施設担当

担当部長 佐 藤 裕 之
主 任 森 寿 子
主 任 富 田 季
主 任 藤 本 博
主任専門員 木 村 誠
嘱託(会計年度) 蝦 名 能 稔

◎施設担当

担当部長 奥 木 敬 司
主 任 真 中 博 行
主 任 若 林 弘 弥
主 事 関 根 嵩 弥

◎企画、学習支援、展示、資料調査・活用担当

副 館 長 岡 本 健 一

◎企画、学習支援担当

主席学芸主幹 野 中 仁

〔企画担当〕

担当部長 金 子 雅 則
学 芸 員 木 村 遼 之
主 事 高 橋 優 美

職 名 氏 名

〔学習支援担当〕

担当課長 木 村 真 輔
担当課長 後 藤 陽 翔
学 芸 員 町 田 歩 未
学 芸 員 中 島 萌
学 芸 員 小 松 和 史
学 芸 員 原 綾 音

○展示、資料調査・活用担当

主席学芸主幹 加 藤 かな子

〔展示担当〕

学芸主幹 池 田 伸 子
主任学芸員 根 ヶ 山 泰 史
学 芸 員 戸 邊 優 美
学 芸 員 西 川 真理子
学 芸 員 井 上 海 実
学 芸 員 別 所 鮎 実
学 芸 員 黒 田 千 尋
学 芸 員 佐 藤 夏 美
学 芸 員 片 山 健 太 郎
学 芸 員 篠 崎 彩 乃

〔資料調査・活用担当〕

主任学芸員 大 橋 毅 頭
学 芸 員 鈴 木 一 史
学 芸 員 濱 田 翠
学 芸 員 田 口 志 織

3 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員名簿

任期 令和4年5月26日から令和6年5月25日まで

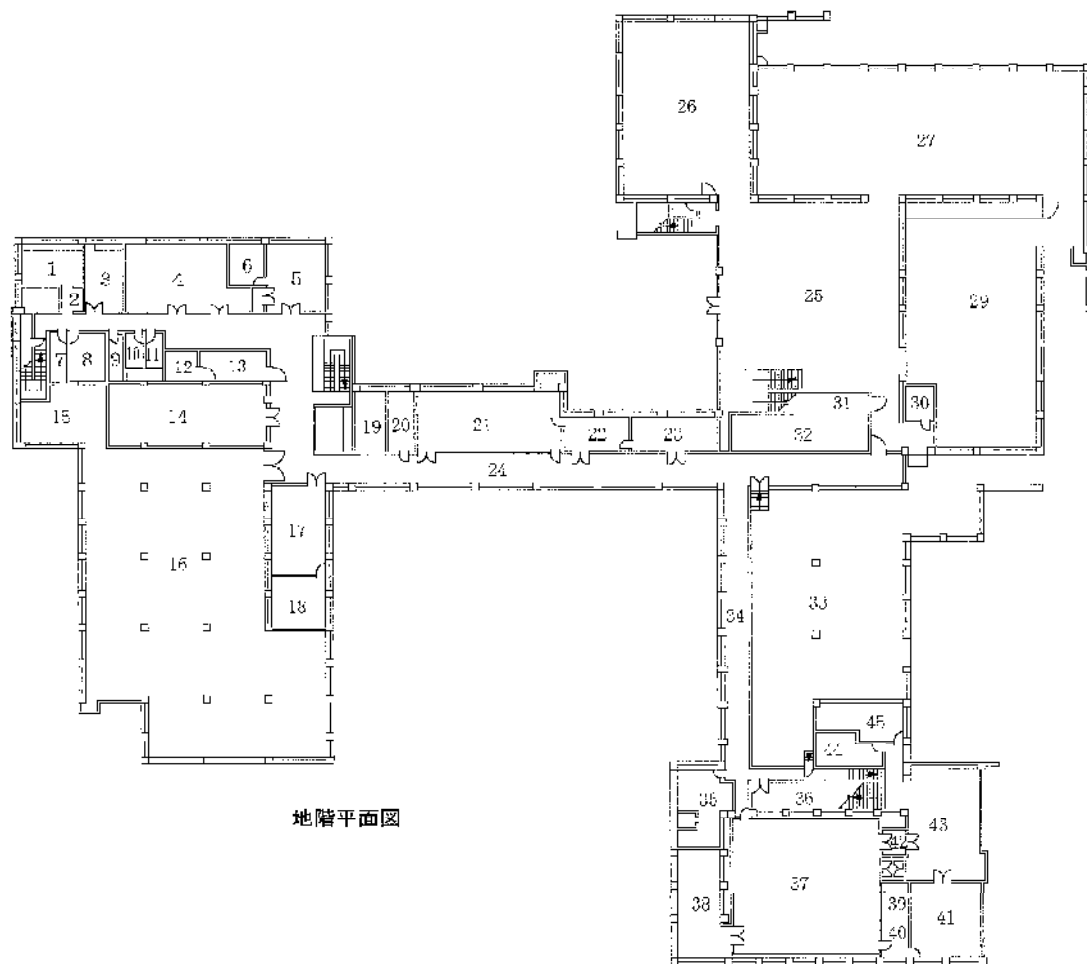
(選出区分別 敬称略 職名等は令和5年7月1日現在)

選出 区分	ふりがな 氏 名	職 名 等
学校教育 関係者	しのだ かなえ 篠田 かなえ	熊谷市立中条中学校長 (令和5年6月20日就任)
	たなか たつや 田中 達哉	県立所沢西高等学校長
	たなか みちこ 田中 理子	県立行田特別支援学校長
社会教育 関係者	おおしか よしお 大鹿 良夫	一般社団法人埼玉県子ども会連合会会長
	おおすぎ なおこ 大杉 尚子	埼玉県地域婦人会連合会副理事
家庭教育 関係者	おがわ みよこ 小川 三代子	埼玉県家庭教育振興協議会理事
	なかむら としこ 中村 淑子	前さいたま市立つばさ小学校学校地域連携コーディネーター
学 識 経 験 者	あきやま じゅんこ 秋山 純子	(独) 国立文化財機構東京文化財研究所 保存科学研究センター 保存環境研究室長
	あさくら なおみ 浅倉 直美	駒澤大学文学部准教授 埼玉県文化財保護審議会委員
	い で あさお 井出 朝男	さいたま市北区植竹町1丁目自治会長
	いとう みつる 伊藤 充	元会社員
	いのうえ ともかつ 井上 智勝	埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授
	きくち けんさく 菊池 健策	都留文科大学非常勤講師 埼玉県文化財保護審議会会長
	せきかわ あさこ 関川 亜佐子	レンタル銘仙ショップ経営・秩父銘仙織元 元秩父市地域おこし協力隊
	の せ もとこ 野瀬 元子	大東文化大学文学部准教授
	はだ まこと 羽田 真	私立学校教諭
	よねやま しろう 米山 士郎	埼玉新聞社編集局ふるさと報道部部長

施設設備

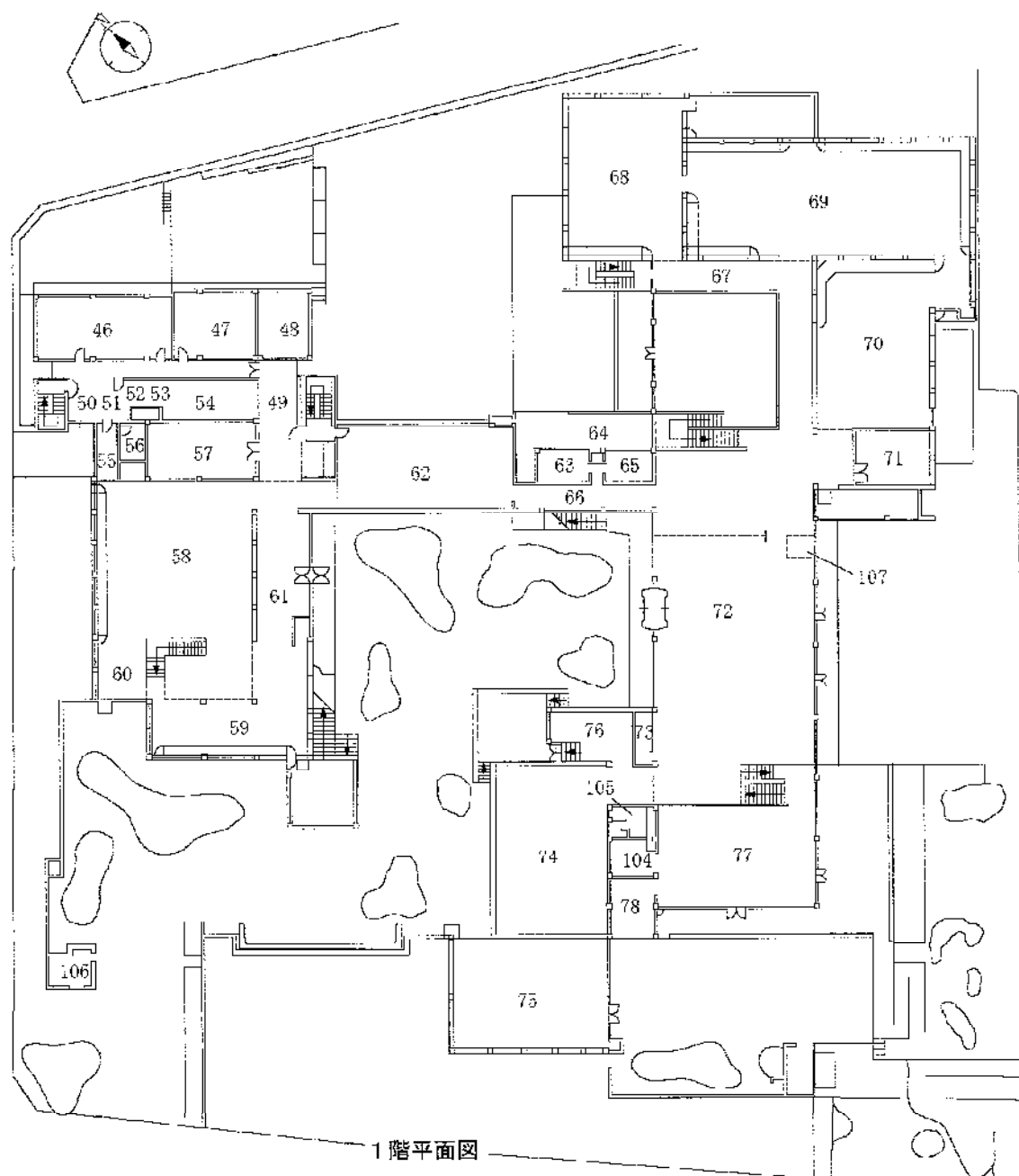
■敷地面積 12,753.71㎡ 延床面積 11,363.93㎡

各室配置図及び各室面積表



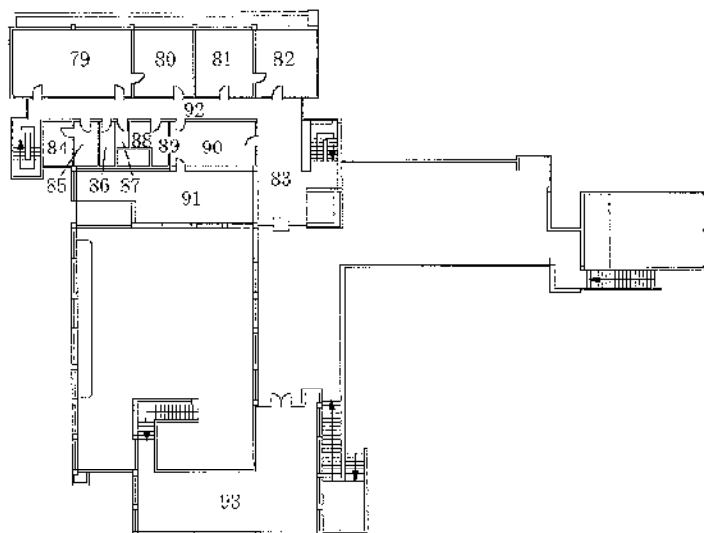
地階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
1	休養室	35.84	16	収蔵庫 2	604.80	32	倉庫 1	47.52
2	湯沸室	7.50	17	図書室 2	52.80	33	空調機械室 1	431.44
3	ボランティアルーム	30.24	18	炭酸ガスボンベ室	33.60	34	廊下	94.32
4	資料保存室	79.20	19	消火水槽	21.60	35	旧食堂事務室	43.92
5	スタジオ	40.32	20	消火ポンプ室	14.40	36	旧食堂倉庫	58.32
6	暗室	17.28	21	変電室	86.40	37	講堂	227.52
7	浴室	9.00	22	中央監視室	23.76	38	講堂準備室	51.84
8	控室	11.70	23	発電機室	32.40	39	音響調整室	10.56
9	男子便所	9.00	24	廊下	373.72	40	湯沸室	18.48
10	女子便所	6.12	25	常設展示室 6	367.74	41	講座室	60.48
11	掃除用具室	6.12	26	常設展示室 7	237.60	42	講堂前室	13.20
12	殺虫消毒室 1	10.26	27	常設展示室 8、9	450.72	43	講堂前ロビー	94.56
13	殺虫消毒室 2	28.50	29	常設展示室 10	320.64	44	男子便所	20.12
14	空調機械室 2	94.80	30	常設展示準備室 2	6.00	45	女子便所	28.60
15	収蔵庫 3	46.50	31	常設展示準備室 3	16.50			

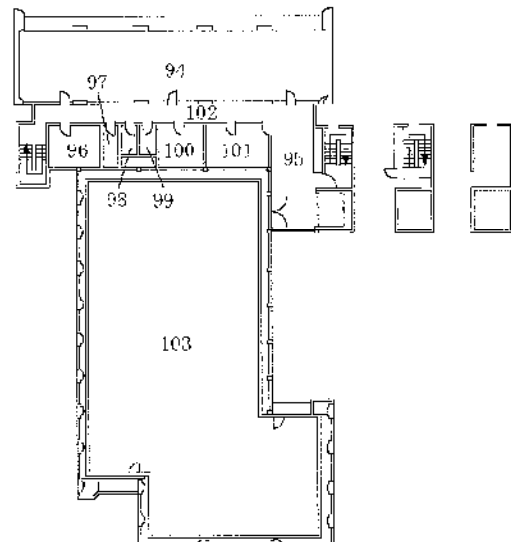


1階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
46	管理事務室	108.00	59	特別展示室1	237.60	71	常設展示準備室1	54.06
47	車庫	64.60	60	休憩室	43.20	72	エントランスロビー	712.80
48	荷扱室	43.20	61	特別展示室エントランスビ-	116.64	73	コインロッカー室	14.40
49	荷解広間	63.36	62	季節展示室	195.84	74	自由自在座	207.36
50	管理棟エントランスビ-	26.88	63	客用男子便所	14.40	75	ものづくり工房	237.60
51	男子便所	9.00	64	みんなのトイレ	7.02	76	ゆめ・体験ひろば準備室	54.48
52	女子便所	6.12	65	客用女子便所	17.18	77	休憩コーナー	207.60
53	湯沸室	3.42	66	廊下	52.48	78	幼児コーナー	37.08
54	荷解梱包室	53.55	67	ギャラリー	144.96	104	自動販売機コーナー	18.47
55	警備員室	16.80	68	常設展示室4、5	237.60	105	倉庫2	8.82
56	救護室	13.20	69	常設展示室2、3	427.68	106	旧正門警備員室	17.55
57	特別展示準備室	72.00	70	常設展示室1	273.18	107	インフォメーション	—
58	特別展示室2	324.00						



2階平面図



3階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡		
79	会議室	86.40	92	廊下	66.24	延床面積	11,363.93 ㎡
80	資料熟覧室	43.20	93	特別展示室3	151.20	内訳	
81	応接室	43.20	94	学芸事務室	226.80	・展示部門	4,984.38 ㎡
82	館長室	43.20	95	ロビー	51.84	展示室	(3,711.96 ㎡)
83	ロビー	51.84	96	副館長室	26.88	その他	(1,272.42 ㎡)
84	電話交換機室	16.53	97	男子便所	9.00	・収蔵部門	1,416.90 ㎡
85	男子更衣室	10.56	98	女子便所	6.12	・管理部門	4,962.65 ㎡
86	男子便所	9.00	99	湯沸室	3.42	その他	
87	女子便所	6.12	100	調査研究室2	21.12	建築面積	4,529.57 ㎡
88	湯沸室	3.42	101	調査研究室1	26.88	内訳	
89	女子更衣室	10.32	102	廊下	66.24	・本館	4,512.02 ㎡
90	図書室	38.40	103	収蔵庫1	712.80	・旧正門警備員室	17.55 ㎡
91	書庫	94.20					

資 料

1 年度別当初予算一覧

単位：千円

年 度	管理運営費	展示事業費	ゆめ・体験 ひろば 事業費	博物館 資料収集 管理費	常設展示室 展示設備 更新事業費	計
平成21	23,319	26,627	6,200	4,292	—	60,438
22	22,633	27,941	5,830	4,135	—	60,539
23	23,194	36,829	5,436	4,456	—	69,915
24	24,395	33,326	8,646	4,268	—	70,635
25	20,647	41,305	6,233	3,991	—	72,176
26	22,855	39,144	6,327	4,032	—	72,358
27	19,891	50,201	5,881	4,127	—	80,100
28	23,303	37,956	5,886	4,215	—	71,360
29	21,193	43,568	5,888	4,281	—	74,930
30	21,055	37,191	5,752	4,331	5,500	73,829
31 令和元	25,072	38,914	5,949	4,461	5,552	79,948
2	21,954	48,307	4,459	6,241	5,603	86,564
3	25,197	48,802	4,250	5,921	5,332	89,502
4	23,409	40,343	4,065	5,198	5,000	78,015
5	25,561	36,014	3,574	5,398	5,000	75,547

2 入館者数の推移

年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考
平成21	184 日	90,477 人	492	9月14日～2月15日工事休館
22	208 日	93,138 人	448	11月15日～3月16日休館
23	305 日	133,160 人	437	
24	310 日	126,886 人	409	
25	311 日	119,953 人	386	平成25年7月1日から高齢者の観覧料減免措置廃止
26	310 日	135,221 人	436	
27	308 日	146,203 人	475	
28	310 日	138,209 人	446	
29	309 日	142,566 人	461	
30	315 日	119,103 人	378	
31 令和元	284 日	104,292 人	367	令和元年10月12日～13日台風のため休館 令和2年2月29日～3月31日感染拡大防止のため休館
2	186 日	23,424 人	126	令和2年4月1日～5月24日感染拡大防止のため休館 令和2年12月24日～3月21日感染拡大防止のため休館
3	306 日	58,333 人	191	令和3年8月26日～8月30日感染拡大防止のため休館
4	212 日	62,125 人	293	令和4年12月5日～令和5年3月31日工事休館

3 所蔵資料数(令和5年3月31日現在) 127,173点(+254点)

絵画	(+23点) 1,581点	工芸	1,485点	彫刻	36点	書跡	182点
歴史	(+96点) 49,121点	民俗	(+135点) 68,711点	考古	6,024点	模型	33点

4 特別展・企画展一覧

年度	春	夏	秋	冬
昭和 46			(開館記念特別展) 埼玉百年史	
47		縄文の美となぞ	アイヌ文化展	関東の鉄仏
48		寺内萬次郎展	台湾の民具	昔の旅
49		足輕胴と陣笠	東北の美術	小村雪岱展
50	原始の世界	埼玉景勝30選展	斉藤与里展	
51	永田二郎展	埼玉の張り子展	さいたまの肖像展	近代埼玉の書
52	中野四郎作品展		戦国武将展	はにわ展
53	埼玉のやきもの	近世埼玉の文人展	奥原晴湖展	
54	弁当箱にみる用と美		絵馬展	胎内納入品をもつ仏像
55	大久保喜一展		文化財保護法施行30周年記念埼玉 の指定文化財展－美術工芸品	板碑展
56		編む	江戸のよそおい	木と漆の原始工芸 －寿能泥炭層遺跡出土品展－
57			古代東国の甕	
58			(新装開館記念特別展) 武蔵武士	荒川の漁具・漁・祖おやの譜録
59	浮世絵	埼玉・岩手文化交流展 北武蔵 杖刀人とその時代	埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景－大地と呪術－	江戸の風俗 －絵筆が語る町人文化－
60	宿場	激動の昭和	(外) メキシコの民芸 －太陽と神々の匠たち－	かお
61	古代の祭祀	(外) 古代メキシコ・オルメカ 文明展	海上之邦おきなわ	武蔵ゆかりの武器・武具
62	秩父－繭そして信仰－	収蔵品展	(外) 埼玉県・山西省友好県省 締結5周年記念－山西省文物展	遊びとおもちや
63	日本のあけぼの	収蔵品展	さいたまの円空	古墳－かざり大刀の世界－ 世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－
平成 元	世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－ 比企－丘陵に生きた人々の暮らし と文化－	収蔵品展	(外) クイーンズランド文化展 －姉妹州の4万の歴史－	酒の文化史
2	さいたまの海 －縄文人からの伝言－	収蔵品展	南蛮の美術 －異国にあこがれた武将たち－	お金百態－寄託資料 埼玉銀行コ レクションを中心に－
3	音のかたち－日本の音を探る－	収蔵品展	(開館20周年記念展) さいたまの名宝 国宝・重要文化 財	喫茶の考古学－茶の湯再発見－ かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア
4	かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア	江戸のからくり夢空間－近代科学 事始	はなのいろはうつりにけり な・・・歌仙絵の世界	鯉絵－鯉が踊れば世も動く－ つば・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし
5	つば・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし	河童VS天狗 －人と妖怪の交流史－	甦る光彩－関東の出土金銅仏－	奉納された道中アルバム －絵馬にみる寺社参り－
6	相撲－むかしきけちゝぶ殿さへす まふとり－	子育ての原風景 －カミの子からムラの子へ－	検証！関東の弥生文化 －一粒の米が変えたくらし－	最新出土品展 さいたま地中からのメッセージ
7	観・天・望・気 －お天気の世界史－	最新出土品展	古代東国の渡来文化	美の匠たち－日本刀をめぐる“わ ざ”の世界－
8	美の匠たち－日本刀をめぐる“わ ざ”の世界－	最新出土品展	太平記絵巻の世界	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～

年度	春	夏	秋	冬
9	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～	最新出土品展	女帝明正天皇と將軍家光～松平信綱とその時代～	人形と張り子 桜花爛漫
10	桜花爛漫	最新出土品展	女性にはわーその装いとしぐさー	さいたまの鉄道
11	さいたまの鉄道	さいたま最新出土品展 ‘99	アイヌの四季と生活 ー十勝アイヌと絵師・平沢屏山ー	さいたまの名宝シリーズ2 ゆ～お風呂の文化史～
12	ゆ～お風呂の文化史～		一象がゆくー將軍吉宗と宮廷 雅	発掘された日本列島2000・さいたま出土品展
13		発掘調査速報展	(開館30周年記念展) 埼玉の名宝シリーズ3ー神楽の風景ー	めざせ日本の近代化 ～日本の産業育てた渋沢栄一～
14	KEMARIー蹴鞠ー	発掘調査速報展	開設四百年 中山道ー武州往来ー	
15		埼玉の名宝シリーズ4 めざめろ 古代ー新指定の考古資料ー	平林寺	銀座復興絵巻
16	銀座復興絵巻	埼玉県発掘調査速報2004	国宝太刀・短刀と太平記絵巻	羽子板の美とわざ 年中行事絵巻
17	年中行事絵巻	あの遺跡この遺物ー埼玉発掘50年史ー	刻まれた鼓動 ～歓喜院聖天堂の彫刻建築～	
18	芸能絵巻～舞い踊り囃す～	天下をまわって1300年 お金があめぐる社会史	由来 伝来 名刀の一千年	祈りの風景 埼玉の絵馬
19	祈りの風景 埼玉の絵馬	博物館発→ちいさな旅 ー埼玉遊覧案内ー	お伊勢さんと武蔵	日本の色彩～藍・紅・紫～
20		埼玉サッカー100年	名もなき至宝ーうけつがれし重要有形民俗文化財ー	誕生 武蔵武士
21		いただきます～食の文化史～	出張博物館in深谷	雑兵物語の世界
22	雑兵物語の世界	ヒーロー参上	仏教伝来 埼玉の古代寺院	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道
23	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道	あそび漫遊	(開館40周年記念展) 円空 こころを刻む ー埼玉の諸像を中心にー	大名と藩-天下泰平の立役者たち-
24	大名と藩 -天下泰平の立役者たち-	にほん美術夏期学校	職人のわざとカタ ー商品の誕生ー	埼玉歴史街道Ⅰ -『新編武蔵風土記稿』の世界-
25	発掘された木の道具	絵で語る埼玉の民話 -池原昭治 童絵の世界-	狩野派と橋本雅邦 -そして近代日本画へ	圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～
26	渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 -Attic Museum-	にっぽん歴史街道 江戸の街道(みち) ～絵図でたどる宿場と関所～	甕の鉄剣	埼玉の自由民権
27	氷川神社と大宮公園	戦国図鑑 ーCool Basara Styleー	慈光寺 国宝 法華経一品経を守り伝える古刹	
28	蔵出し資料 ー館有コレクションの優品ー	高麗郡1300年 ー物と語りー	徳川家康 ー語り継がれる天下人ー	祝いの民俗 ーハレの造形ー
29	縄文の空間 ー暮らしと願いー	くらべる古美術 ー見て考える美術のひみつー	上杉家の名刀と三十五腰	明治天皇と氷川神社 ー行幸の軌跡ー
30	田んぼ ー埼玉、人と水の風景ー	古文書 大公開！ ーみる・よむ・しらべる埼玉ー	ダムと変わる！ 私たちの暮らし！	埼玉の官衙 ー律令時代の“お役所”ー
31 令和 元	東国の地獄極楽	北沢楽天と時事漫画	子ども／おもちゃの博覧会	縄文時代のたべもの事情
2	武蔵国の旗本 (感染拡大防止のため全日程休館)	太平記絵巻 (感染拡大防止のため開催延期)	新収集品展2018・2019	銘仙 (感染拡大防止のため全日程休館)
3	(NHK大河ドラマ特別展) 青天を衝け ～渋沢栄一のまなざし～	太平記絵巻 ー描かれた武士の世界ー	(埼玉150周年及び開館50周年記念展) 埼玉考古50選	お茶を楽しむ
4	埼玉武術英名録 共催展 昌国寺	発掘された日本列島2022 地域展「埼玉の国指定史跡」	銘仙	
5	(出張展示 in 深谷) 書画から見よう 栄一と惇忠		縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー	

利用案内

◆展示室等の観覧について

1 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

※ 7月1日から8月31日までは、午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

2 休館日

- （1）月曜日（ただし祝日及び振替休日、11月6日、3月25日は開館）
- （2）大規模改修工事に伴う休館（4月1日から10月13日までを予定）
- （3）年末年始（12月29日から1月1日まで）
- （4）館内消毒のため休館（2月26日、27日）

3 展示解説

- （1）各展示室では、ボランティアが御希望に応じて解説・案内します。
- （2）団体見学の場合は、10日前までにお申し込みください。

4 観覧料

- （1）常設展示： 一般 300円（200円） ※（ ）内は団体（20人以上）料金
 高校・学生 150円（100円）

（2）特別展・企画展開催期間中は別に定めます。

（3）次の方は無料で観覧できます。

- ① 義務教育修了前（中学生以下）の方
- ② 障害者の方（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方）
- ③ 上記障害者の介護の方（障害者一人につき一人）

※ 65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により、平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。

5 観覧料の免除とその手続き

（1）次の場合は、「観覧料等減額（免除）申請書」に、実施計画書等を添付の上、観覧日の10日前までに提出していただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する幼稚園、保育所園、小・中学生の引率の方
- ② 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する高校・大学生・各種学校等の生徒とその引率の方
- ③ 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、他の地方公共団体が開催する歴史と民俗の博物館の資料に関する事業（講演会、講習会、研究会等）を企画した主催（引率）の方
- ④ 埼玉県又は埼玉県教育委員会が開催する全国会議・ブロック会議・研修会等に参加し、会議又は研修会の日程の一環として観覧する方

（2）次の場合は、視察依頼書を提出していただくことにより観覧料を免除します。

- ① 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、地方公共団体又は市町村等関係機関関係者で、歴史と民俗の博物館の事業及び施設設備の視察を目的とした観覧

(3) 次の場合は、インフォメーションにお申し出いただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動のための下見をする方
- ② 歴史と民俗の博物館に資料を寄贈、寄託している方
- ③ 歴史と民俗の博物館が発行する優待券、招待券、ボランティア登録証をお持ちの方

6 問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 総務担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆講堂・講座室について

1 施設の概要

- | | | | | |
|---------|----|---------|------|------|
| (1) 講 堂 | 面積 | 227.52㎡ | 収容人員 | 162人 |
| (2) 講座室 | 面積 | 60.48㎡ | 収容人員 | 30人 |

2 利用料金

種 類	項 目 (貸 出 単 位)	金 額
施 設 使 用 料	講 堂 (1 時間)	630円
	講座室 (1 時間)	160円
附 属 設 備 使 用 料	音響設備 (1 回)	110円
	ビデオプロジェクター (1 回)	840円

- (1) 附属設備については、利用開始からその日の利用終了までで1回とします。
(2) 使用料が減額又は免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

3 注意事項

- (1) 次の場合、施設の御利用はできませんので、御了承ください。
- ① 博物館の管理上支障があると認められるとき。
 - ② 公共の福祉を阻害するおそれがあると認められるとき。
 - ③ その他博物館の設置の目的に反すると認められるとき。
- (2) 施設利用を許可するにあたり、必要がある場合は、条件を付したり、制限を加えたりすることがあります。
- (3) 施設を利用できるのは、開館日の開館時間内のみです。
- (4) 利用時間には、準備及び片付けの時間も含まれます。
- (5) 利用を終了したときは、施設の状態を速やかに利用前の状態に戻してください。
施設や設備を損傷したり、備品等を紛失したり損傷したりしたときは、それを修理し、損害を賠償していただきます。
- (6) 附属設備、長机、予備椅子を利用したい場合は、事前に申し出てください。
- (7) 研究会等で図録等を販売しようとするとき、又は特別の設備等を利用しようとするときは、事前に申し出てください。
- (8) 講堂・講座室は地下1階にあり、エレベーター、スロープ等はありません。

階段昇降機が設置されておりますので、車椅子で御利用になる場合は、職員が操作いたします。
遠慮なくお申し出ください。

(9) 展示室は有料となりますので、展示室を御利用の際は観覧券をお買い求めください。

4 利用申込み

- (1) 原則として、利用日の属する月の3か月前の初日（その日が休館日である場合にはその翌日）から、利用日の7日前（その日が休館日である場合にはその前日）までに、埼玉県立歴史と民俗の博物館事務室まで「施設等利用（変更）許可申請書」を提出してください。空き状況は電話で確認することができます。
- (2) 予約及び申請の受付時間は、開館日の開館時間内のみです。
- (3) 申請に基づき、「施設等利用（変更）許可書」及び使用料の「納入通知書」を発行します。
- (4) 使用料については、「納入通知書」により、最寄りの金融機関等で納入期限までに納入してください。

5 申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 施設担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆資料の写真原板使用及び資料写真撮影・熟覧について

当館の所蔵資料で写真原板があるものについては有料で御利用いただけます。
また、保存上などで問題がない資料については、写真撮影・熟覧の取扱いをいたします。

申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964

◆資料の寄贈受入について

資料の寄贈希望がある場合は、資料調査・活用担当に御一報ください。事前調査をしたのち、書類手続きを行います。その後、資料評価会議に諮り、審議したのち正式に受け入れます。

※ 当館の資料受入基準から外れるもの、すでに同様の資料が収蔵されている場合などは、事前調査をすることなくお断りする場合がありますので御了承ください。

申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964



埼玉県のマスコット コバトン

令和5年度 埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧（第18号）
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL 048-645-8171（学芸）
TEL 048-641-0890（総務・施設）
FAX 048-640-1964
ホームページURL <https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

発行：令和5年7月